北下浦ガイドマップ　解説

凡例：　途絶●　位置不明●　危険●　個人宅●

❶ 千駄ケ崎砲台跡 ●

東京湾に突き出た千駄ヶ崎は、絶壁が海に接した自然の要害で、外国船の出没する幕末になると、沿岸防備の必要に迫られた幕府は、弘化 4 年（1847）彦根藩主井伊直亮に命じて、ここにお台場を築かせた。明治に入っても東京湾要塞地帯の拠点となり、大正期には観測所を設け、要塞砲が据えられ、一層防備が固められて、軍人以外は立ち入ることのできない所となったが、一度も砲火を見ることなく終戦を迎えるに至った。弘化 4 年の銘記のあったお台場への切通しの片側のみ山腹に残っている。

❷ 千駄稲荷 ●

昭和 15 年（1940）頃までは、毎年初午になると野比東地区の子供達は、いなりっこの太鼓をたたいて、高張提灯を先頭に現在の久里浜医療センター（旧国立療養所久里浜病院）が建っている付近にあった千駄稲 荷のお祭りをしたものである。その昔、藤原武明がある夜、夢の中に童子が現れ、武明の忠誠を賞するお告げがあった。翌朝目覚めた武明は千駄一帯を拝領した。そこで屋敷を建てようとして山に分け入ったところ、榊の古木の枝に白いものが見えたので近寄ってみると、白狐の尾であった。これはめでたい瑞兆と持ち帰って稲荷大明神として「千駄稲荷社」に祀り崇めたといわれている。後に、千駄ケ崎一帯が要塞となるに及んで、稲荷社は区域外のこの地に移されたが、昭和 16 年（1941）横須賀海軍病院野比分院の建設とともに稲荷社の所在は不明となった。

❸［民話］千駄観音

「かんのんどう」と呼ばれていた千駄の鼻っとの里に、日ごろから行いが正しく、観音様を深く信仰している漁師がいた。ある日、漁を求めて沖に出たところにわかに雲行きが怪しくなって暴風雨となり、舟は木の葉のように押し流されて浜に戻れなくなってしまった。心配した漁師の妻が、夫の安全を観音 様に一心に祈ったところ、千駄から一条の光が漁師の舟に届き、その光の中に一列の下駄が千駄の浜ま で連続しているのが見えた。そしてどこからともなく、「沖の漁師よ、日ごろの正しい行いによって、今日はそなたの命を助けて進ぜよう。その下駄を伝わって浜に帰りなさい。」と観音様の美しい声が聞こえてきた。お陰で命拾いした漁師は、その後も一層信仰を厚くして、この観音様を野比の稱名寺に祀り、その信仰のもとますます行いを慎み、幸福に暮らしたという。

❹ 千駄ケ崎横穴墓群 ●

千駄ケ崎横穴墓群は、「千駄横穴墓群」、「かがみ田横穴墓群」、「ふくざく谷横穴墓群」の 3 墓群から構成されている。横穴墓は古墳時代の墓室の一種で、掘り易い地質の山腹に穴を掘りくぼめて墓室としたものであり、死者を葬る主室（玄室）とその前方にある通路（羨道）とからなる。6~7 世紀頃に造られた。

❺ 千駄ケ崎地層露頭

千駄ケ崎の地層露頭は、三浦層群逗子層と呼ばれ泥岩、砂岩でできており、今から約 600 万年～400 万年前に深海の堆積物で造られた地層で三浦半島の大半を占める地層です。この地層は北武断層の地殻変動により周りの地面が引張られ横向きだった地層が縦向きに隆起し、きれいな縞模様をなす泥岩・砂岩の互層が、本来、水平になるはずが、垂直になって露頭に現れており、現在も小学 6 年生の理科の教材として教科書にも掲載されている。この地層は、野比海岸手前の、バス停「千駄ケ崎」の傍の山側の崖に現れている。

❻ 横須賀老人ホーム・北下浦地域包括支援センター

昭和 46 年（1971）に神奈川県が設置し、神奈川県社会福祉事業団が運営にあたり、特養（224 床）、養護（50 床）を擁する高齢福祉施設です。また、同施設内には、平成 18 年（2006）に横須賀市からの委託を受けて、北下浦地域包括支援センターが高齢者の身近な相談機関として、介護、福祉、医療などの相談を受け付けている。

❼ 野比海岸水仙ロードとビッドル広場

○ **野比海岸水仙ロード**

1960 年代に白砂青松を切り開いて作られた野比海岸通りも、2000 年頃には雑草が歩道を覆っていた。野比海岸美化活動として、草刈り、ゴミ拾いと同時に、①冬に咲く、②潮風に強い、③球根など地元から多くの協力が期待できる花として、開墾しながら水仙を植え始めた。地元の方々や、とりわけ鋸南町の水仙組合から10年間にわたり、栽培の指導や毎年数千球～1 万球を超す球根の寄贈を受けて水仙ロードを造ってきている。2012 年からは北下浦地域運営協議会が「水仙の街・北下浦」事業として北下浦地域全体の取り組みを進めている。100万球の水仙と「わたし水仙・・・」の看板が通年的に心を和ませてくれる。

○ **ビッドル広場**

弘化 3 年（1846)5 月、ペリー来航の 7 年前にアメリカ東インド艦隊のビッドル提督が 2 隻の軍艦で浦賀沖に来航。アメリカ合衆国政府の公的使節として日本との通商を求めるものであった。幕府が申し出を拒否したことにより退去したが、大艦巨砲による威圧は、大船建造禁止令の解除から鳳凰丸の建造など、後の幕府の海防政策に大きな影響を与えた。広場は日本の文明開化の先鞭をつけたビッドル艦隊が 3 海里（約 5.5 km）沖に9 日間停泊したとされる野比沖が一望できる場所として通称ビッドル広場と呼ばれている。

❽ 源氏ボタル生息地

ホタル類中の最大種で、幼虫は清流に生息し、カワニナ等の巻貝を食べる。幼虫も発光するが光は弱い。成虫は 5 月下旬から 6 月中旬にかけて出現する。汚染、農薬使用等で絶滅寸前のホタルがここには生きている。これからも生息地を大切に保全したい。

❾ 牛かくし谷戸 ●

「毛唐人は牛を喰い、血を飲む」… 嘉永 6 年（1853）ペリー来航によって泰平の夢を破られた野比の 住民がいちはやく耳にしたニュースがこれであり、「それは大変」と、みんな牛を連れてこの谷あいに隠してしまったといわれている。

❿ 旧海軍水中聴音実習所 ●

旧海軍は、東京湾に侵入する敵潜水艦をいち早く探知するため、昭和 7 年（1932）はじめ頃から先端に聴音機を取り付けた海底電線を沖合 2,500 メートルまで敷設し、出入りする艦船のエンジン音を日夜レシーバーで聞く水中聴音実習所を設置していた。

⓫ 野比中学校

地域開発、団地造成による北下浦中学校の生徒増に伴い、昭和 52 年（1977)4 月開校（9 月移転）された。当初は野比、粟田、ハイランド全域を学区としていた。平成 28 年度末で 8,062 人の卒業生がいる。

⓬ 野比東小学校

平成 8 年（1996)、野比小学校の児童数増加にともない、分離・独立して開校された。「東」とは、この地区の小字から採用されたもので、中村、東、花輪、ライブタウン、チュリスガーデン、東ノ入、野比海岸を学区とする市内第 49 番目の小学校として誕生した。平成 28 年度末で1,557 人の卒業生がいる。

⓭ 最光寺

浄土真宗大谷派法龍山宝積院最光寺、通称「浜の寺」で知られる。草創は行基菩薩、本尊の阿弥陀如来は、「風土記稿」によれば三浦義明の守り本尊といわれている。もとは天台宗であったが、真宗に改められた。かつて寺が落雷により火災を起こした時、たまたま江戸に向かって航行中の材木船がその火を見て陸地を確認し、安全に航行することができたお礼に、その材木商が新築用材をすべて寄進し立派な堂宇が再建されたという話が残されている。しかし昭和 15 年（1940）再び大火災によって消失した後、昭和 42 年（1967）一段下の現在地に立派な本堂を復興した。境内には若山牧水の歌碑がある。

⓮ 白髭神社

○ **白髭神社**

神社の石碑文によると、往古、浦賀入港の船が野比千駄ヶ崎でしばしば遭難したので、これを憂えた住民が「とがさん（今の富塚山）」山上に猿田彦命を勧請したと伝える。祭神猿田彦命。創建は不詳で あるが、碑文では「寛永 8 年（1631)、菱沼某、同志を募り富塚山南麓に社壇を築き神威に応えた」と あるので、もと山頂にあった社殿を裏山から現在地に移したものらしい。元禄 4 年（1691）菱沼茂行等が破壊を悲しみ再建したといわれている。明治 41 年（1908）神社併合令により、中村浜の諏訪神社・千駄の稲荷社・東の貴船神社・中村岡の神明社・志もの天神社・花輪の水神社・大作の子之神社の各社がここに合祀された。

○ **白髭神社の社叢林**

急速に都市開発が進んだため、いわゆる自然林はほとんど見られなくなってしまった。この裏山は 海風が吹きつける厳しい条件下で 10 メートル前後の常緑広葉樹が密生した学術的にも貴重な森で、昭和 51 年（1976）に神奈川県の指定天然記念物として保護されている。

⓯ おんべ焼き

昔は、「デーセナ、デーセナ、セートオンベモスゾ、ジンジモバンバモトビオキロ、デネーモナガニガ ンゾ」とおんべ焼の朝に子ども達が触れ回っていた。左義長とも言われ、正月の門松や注連縄を海岸の 予定場所に集めて組み上げ、七草の早朝に焼く。この火で焼いた餅を食べると風邪をひかないとか、無病息災、悪疫退散、家内安全を祈願する行事で新年の風物詩、現在でも、東・中村・志も・長岡・熊野神社（境、宮ノ下、七軒町）などで、毎年 1 月初旬の休祭日早朝に行われている。

⓰［民俗芸能］虎踊り

野比中村町内に伝わる虎踊り。由来は詳らかでない。虎の加役に近松門左衛門の戯曲「国性爺合戦」の和唐内が出ることから元禄以降のものと思われ、伊豆方面からの伝来説もある。笛、太鼓に合わせて二人だちのぬいぐるみの虎が踊る。加役は和唐内のほかに、大唐人、踊り手の唐児が約 10 人出演する。虎芸は「しっちょい」「玉あそび」「しらみ取り」「谷のぞき」「一本杉」等 9 種類。もとは虎台の上で演 じられ、笛・太鼓・鉦の囃方はその下に入っていた。市内の西浦賀町、静岡県の南伊豆町にもあるが、それぞれ類似、相違点がある。この中村町内の「虎踊り」は平成 16 年（2004)2 月から文化庁の無形文化財に選択された。

⓱ 旧野比学校跡

「村ニ不学ノ戸ナク、家ニ不学ノ人ナカラシメン」という、明治開化精神から明治 5 年（1872）学制が施行され、同年 7 月野比大作の最宝寺を借りて、下等・上等の小学科を設け、ついで同 7 年同所の堀越三郎右衛門宅に移ったが、同 9 年 3 月野比中村 348 番地、通称お伊勢山に、草屋根に障子の校舎が新築された。ここでは、明治 34 年（1901）長沢にできた北下浦尋常小学校に統合されるまで授業が続けられた。

⓲ 武山不動尊道標

この街道の移り変わりを、約 160 年前の江戸時代末期の安政 2 年（1855）からじっと見つめているのが、武山不動尊前不動といわれるこの石造りの道標である。台座正面に「右うらが、かもゐ」「左みやた、みさき」とあり、台座上部には「此方たけやまみち」と刻まれ、行き交う旅人へのあたたかい「道しるべ」として建っている。

⓳ 開田氏藤原玄了の墓 ●

もと野比火葬場跡に在った「野比沼開田碑」である「開田氏姓藤原玄了之墓」は、宅地開発により、近くの寺院に移設され安置されている。この墓の碑文によれば藤原玄了は伊勢の国で漢学・医学者として活躍し、幼少より陽明学を学び、人を救うことを志して民を導き、元禄 2 年（1689）江戸で亡くなった。伝承によれば野比の小字「沼」、「大作」周辺（現在の大作町内）の沼地だった一帯を開墾した恩人。没後里人が墓を建てたという。それから 100 年後の天明 5 年（1785）に、玄了の曽孫「万邦氏」がこの地に墓参りに訪れ、読めなくなった碑文を子孫のために改めて刻んだ由来のある墓である。

⓴ 最宝寺

浄土真宗本願寺派高御蔵五明山最宝寺と称する。通称五明山と呼ばれ、4 月 8 日には甘茶が振る舞われるお寺として親しまれていた。開基は源頼朝で、開山は頼朝の甥の明光上人と伝えられ、建久 6 年（1195）鎌倉市弁ヶ谷に創建されたが、その後、大永年間（室町時代後期）に 9 世明心が戦乱や後北条氏の圧迫を避けるため、現在地に移転した。本尊は阿弥陀如来で、徳川時代には 1 万石大名の格式を持つ寺として扱われていた名刹であり、寺宝も多く、薬師如来座像は、昭和 41 年（1966)7 月県の重要文化財に指定されている。

㉑ 最蔵寺

浄土真宗本願寺派光照山最蔵寺。貞応元年（1222）の創建、本尊阿弥陀如来、開基徳林上人は、禁中守護に当たっていた北面の武士で相模之介藤原千晴と名のっていたが、天台学を修めたあと最善坊と称し諸国行脚の末、後に親鸞に帰依して真宗に改めた。はじめ五明山付近の沼の地にあったが、鎌倉からの最宝寺の移転に際して現在地に建立された。もとの本堂は文明年間（1469~1487）に建立された萱葺の大本堂であったが、関東大震災で倒壊、戦後大改築を行い現在に至っている。

㉒ 稱名寺

浄土真宗本願寺派酔蓮山稱名寺。本尊阿弥陀如来、開基真仏上人。かつて真言宗で一水山大塔院と称していたが、貞永年間（1232～1233）に下総結城の稱名寺開基の真仏上人がこの地に来て、親鸞聖人に帰依し真宗に改められた。本堂左手の観音堂には、千駄観音が火災にあって焼け残った櫛を胎内に納めた腹籠観音が祀られ、安産の守り本尊として信仰を集めている。

㉓ 野比小学校

北下浦小学校の児童数増に伴い、昭和 57 年（1982)4 月野比地域の小学生を対象として開校された。更に平成 8 年（1996）に児童数の増加により、野比小学校から野比東小学校が分離独立した。平成 28 年度末で 3,200 人の卒業生がいる。

㉔ 粟田地蔵尊

昔、粟田街道を通行する旅人の道中安全や歯痛・頭痛等に霊験ありとして信仰されていた。もとは粟田小学校辺りの「松の大木」の下に祀られていたが、粟田の宅地開発に伴い、昭和 46 年（1971）に田中家が現在地に移したもので、諸願成就のお礼参りには貝殻を捧げる習わしがあり、今も貝殻が絶えな い。

㉕ かろうと山古墳

「かろうと」とは石室、つまり石造りの部屋を意味する。野比川の上流長沢四ツ田の山頂（光の丘隧道の真上）東南端に位置し、凝灰岩の切石で造られた箱式石棺を埋設し、墳丘の規模は直径 14m×13m、高さ 3m の円墳です。盗掘されていたにもかかわらず、直刀、鉄鏃（やじり）、金銅製品等が出土し市自然・人文博物館に展示されている。7 世紀中頃の築造で、三浦半島では最後の古墳と推測されている。

平成 20 年（2008)3 月、かろうと山古墳及び周辺地域が横須賀市の指定史跡となっている。

㉖ 横須賀リサーチパーク（YRP）

21 世紀の豊かでゆとりのある高度情報通信社会に向け、産・学・官が連携し、世界的な情報通信技術の研究開発を目的として、横須賀市光の丘に平成 9 年（1997）に開設した国際的研究拠点である。大手情報通信関連企業の研究施設が立ち並んでおり、全体面積は約 59 ヘクタールで丘陵地の地形を生かした基盤整備により豊かな自然が保たれている。

㉗ 長岡地蔵尊

長沢の長岡町内会館の前の旧道脇にあるお堂に祀られている地蔵尊。地蔵尊の基礎石に刻まれている 碑文から享保 9 年（1724）に造られた延命地蔵であることが分っている。延命地蔵は新しく生まれた子 を守り、短命、夭折の難を免れることから、この堂前の地域では「長岡の子育て地蔵」とも呼ばれている。

㉘［民話］なおけの里

「ある日、磯で大蛸を見つけて喜んだ漁師は、早速捕まえようとしたが、磯にくっついて離れない。足を 1 本切り取ったところ、桶に一杯あった。次の日も次の日も漁師はそっと磯に行き、桶一杯の足を 切り取って持ち帰った。いよいよ八本目の足を切ろうとしたところ、怒った蛸はアッという間に漁師を海の底深く引きずり込んでしまった。」という欲張りな漁師のお話で、今もこの地を「なおけ（七桶）」の里と呼んでいる。なお、三浦、葉山方面にも類話が伝わる。

㉙ 若山牧水夫婦歌碑・若山牧水文学碑

○ **若山牧水夫婦歌碑**

若山牧水、本名繁、明治 18 年（1885）宮崎県に生まれ、「牧水」という雅号は、敬愛する母マキの名 と好きな渓流の水を合わせたといわれ終生変えなかった。牧水は、大正 4 年（1915)3 月妻喜志子の病 気療養のため、東京から北下浦に住み、翌 5 年 12 月、2 年足らずの短い期間であったが東京に引き揚げた。漂泊歌人といわれた牧水は、当時の歌壇では、既に名声があったが、北下浦では知る人もなく、親子三人貧しいながらも平和な日々を過ごし、歌集「砂丘」「朝の歌」、随筆「旅とふる里」等、多くの作品を残している。「親切なお医者」津久井の田辺久衛医師が一家の主治医で、没後その後を継いだ秀久 医師が、昭和 26 年（1951）独力で牧水歌碑の建立を志した。しかし、病に臥し断念せざるを得なくなったとき、横須賀観光協会がこれを引き継ぎ、昭和 28 年（1953)11 月 3 日文化の日に除幕された。

しら鳥はかなしからずやそらのあを
　海の青にもそまずたゞよふ　　牧水

うち煙りのこぎり山も浮かび来と
　今日のみちしほふくらみ寄する　　喜志子

○ **若山牧水文学碑**

横須賀市が文化振興の一環として、昭和 58 年（1983）から岩野泡鳴詩碑（中央公園）・与謝野寛、晶子歌碑（愛宕山）・前田夕暮歌碑（長井富浦公園）・芥川龍之介文学碑（吉倉公園）をそれぞれ建立したが、昭和 62 年（1987）には北下浦にゆかり深い歌人若山牧水の歌碑が、長岡半太郎記念館前に建立さ れた。歌は第八歌集「砂丘」に三浦半島と題し「病妻を伴い三浦半島の海岸に移住す、三月中旬の事なりき」と前文が付いた。

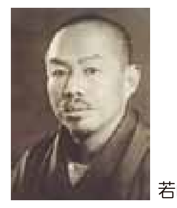
海越えて鋸山はかすめども
　此処の長浜浪立ちやまず

であり、書は牧水の長男旅人氏の揮毫によるものであり、この文学碑は市の第 5 号文学碑になっている。なお、「若山牧水夫婦歌碑」と「若山牧水文学碑」は、現在、野比から長沢にかけて海岸の遊歩道に並んで移設されている。

㉚ 長岡半太郎記念館

長岡半太郎博士は、慶応元年（1865）長崎県に生まれ、父と上京し、成長とともに英才ぶりを発揮して東京帝国大学卒業とともに助教授となり、28 歳にして理学博士、次いでドイツ留学し帰国後、東京 帝大教授、定年退官後に大阪帝国大学初代総長と、文字通り我が国の明治・大正・昭和にわたる物理学 の先覚として活躍、昭和 12 年（1937）には第 1 回文化勲章を受章した。明治 43 年（1910）津久井の森崎盛之助の紹介で長田氏の農家を土地付きの別荘として買取り、昭和 25 年（1950）亡くなるまで使用していた家跡に、博士の偉業をたたえて、京浜急行により記念館が建てられ、昭和 56 年（1981）横須賀市に寄贈されたのが、この建物である。庭前に置かれた石の机はかつて自宅前の築山の上にあって、暇をみては太平洋を眺めつつ仕事をした博士愛用の野外机である。この記念館は、若山牧水の資料館にもなっており、長岡半太郎と若山牧水の遺品などが展示されている。

長岡半太郎



若山牧水

㉛ 若山牧水住居跡（かわばた、うえのなんや）●

大正 4 年（1915)3 月 19 日、妻喜志子の病気療養のため、早稲田の僚友佐藤緑葉がかつて住んだことのある長沢 808 番地、斉藤松蔵方（屋号かわばた）を紹介され、東京から移り住んだ。かわばたの 家庭の事情から、翌年 6 月に谷重次郎方（うえのなんや）に転居、奥の八畳間に寝起きし、牧水は専らその前にあった物置の二階を借りて書斎として作歌にふけっていた。長男旅人への暖かい愛情溢れる随筆「物置の二階」はここでの作である。気候の温暖な北下浦での療養生活から日増しに喜志子の健康も回復し、大正 5 年（1916)12 月 28 日、一家は東京小石川へ引き揚げていった。

㉜ 旧長沢学校跡 ●

明治 5 年（1872）学制が施行され、長沢では明治 7 年（1874)5 月、源仲商店前にあった法善寺の本堂を借りて学校を設立し授業が始められたが、同 12 年（1879）長沢台の山田喜代松氏宅付近に新校舎が 建てられ移転した。明治 34 年（1901）北下浦小学校に統合されるまで、ここで授業が続けられたが、校舎は藁葺き、障子張り、授業開始の合図は拍子木だった。

㉝ 天照大神

天照大神は長沢峯の通称お伊勢山に在り、祭神は大日孁貴命（おおひるめのむちのみこと = 天照大神）。創建、由緒は詳らかではないが、江戸時代中頃に「天照大神を祀る伊勢神宮」へのお伊勢詣が盛んな頃、伊勢神宮の御分霊を村人の総意によりこの地に勧請したものである。明治 6 年（1873）に村社となり、長沢村の鎮守となった。明治 41 年（1908）神社併合令により、富士山の浅間神社・若宮神社、長沢の熊野神社、春日神社がここに合祀された。

下段左㉞へ続く

㉞ 焼こめ搗（つ）き ●

やこめ（焼米）搗きは、かなり昔から三浦半島一円に行われていた。やこめとは、苗代に蒔いた種籾の残り（芽の出ている）を、せいろでふかし、それを煎って干し、臼で搗きあげたもので、甘みがあって子どもたちや田仕事のおやつなどに喜ばれた。エーこちらの種蒔きゃ好い日にまけたドッコイショ苗の芽立ちもさぞよかろうと唄いながら搗くこのやこめ（焼米）搗きは若衆の楽しみで、年頃の娘のいる家など夜遅くまで賑やかに行われたと聞く。

㉟ 砲台山

本来の名称は大塚山であるが、昭和 6 年（1931）から海軍による砲台が構築され、軍人以外地主といえども立入禁止となり、いつしか砲台山と呼ばれるようになった。昭和 18 年（1943）夏、追浜航空隊が空襲された際には数十発の砲声を聞いたが、敵爆撃機には届かず、かえって砲弾の破片が付近に落ちてきてあわてて牛を小屋に引き入れたものだと古老は語る。戦後は解放され三浦富士・武山ハイキングコースの中間にあり、現在、海上保安庁の所管となり無人の受信所が建設されている。

㊱ 三浦富士・お焚きあげ

○**三浦富士・お焚きあげ**

武山丘陵に連なる標高 183m の浅間山は、通称、三浦の「ふじやま」と呼ばれ、古くから駿河の富士信仰と結び付き、浅間神社の「奥の宮」として鎮座している。毎年 7 月 8 日には、お焚きあげの神事が 先達により行われ、家内安全、商売繁盛、大漁・海上安全、五穀豊穣、無病息災・安産と婦人の病気回復を願って加持祈祷が行われるので、三浦半島一円の漁師・農家の人たちなど、殊に婦人の参拝者で賑わっていた。なお、お焚きあげの神事は、平成 27 年、28 年、29 年は中止されている。

○ **［民話］お富士さん**

むかしむかしよく晴れた秋の日に、お富士さんは駿河の富士山と背くらべをやったところ、どうも少しばかり駿河のほうが高い。負けん気のお富士さんは、どうにかしてこの敗北を取り返したいものと、そっとあたりを見回すと、ちょうど幸い足元に一足のわらじが落ちていた。それを引き寄せて足の下に敷いたところ、ちょうどむこうの駿河の富士山と同じ高さになった。

㊲ トウキョウサンショウウオ

セキツイ動物、イモリに似た両生類で谷あいの落ち葉の下など湿り気のある環境に棲む。2~3 月頃、谷戸の湧き水にバナナ状の卵嚢（らんのう）の状態で産卵する。以前は各所で見られたが、現在は限られた地域でしか確認できない。環境省のレッドリスト・絶滅危惧類であり大切にしたい。

㊳［民話］大根石（おおねいし）の大蛇 ●

むかしむかし長沢本行寺谷戸のお百姓さんは、毎年田植えのころになると田んぼが荒らされてとても 困っていた。ある夜見張りをしていて、裏山の大根石に住む大蛇が谷戸の堰に水を飲みに来ていたのを 知った。この大蛇が、ある日房州鋸山に住む娘大蛇に恋をしたが、流れの速い海はとても一息には渡れない。思い余って大蛇は駿河の富士に住む竜神に打ち明けると、「相模の潮は速い。この石を足場にして渡りなさい」と大石を授けてくれた。喜んだ大蛇は力いっぱい大石を海に投げ入れたところ、石は空中で三つに砕けたが、大蛇は無事房州に渡ることができた。それからは、谷戸の田んぼは荒らされることもなく、実り豊かな秋を迎えることができた。また、大蛇が投げ入れた石は、今も「三ッ磯」と呼ばれ、北下浦の漁師に親しまれている。

㊴ 長沢中学校

地域の開発等による北下浦中学校の生徒急増のため、昭和 52 年（1977）の野比中学校分離に続き、長沢、グリーンハイツと一部野比地区の生徒を対象に、昭和 60 年（1985)4 月、北下浦中学校から分離して長沢中学校が開校した。平成 28 年度末で 4,708 人の卒業生がいる。

㊵ 本行寺

日蓮宗、南向山本行寺と称し、本尊日蓮上人、開基は日感上人。寺記によると初め永禄元年（1558）に長沢の堂前に建立された。江戸時代の天明元年（1781）に村岡の現在地に移転されたといわれる。寛政 8 年（1796）に建てられた本堂は、大正 12 年（1924）の関東大震災で倒壊し、しばらく仮堂であったものを、昭和 50 年（1975）日蓮上人七百回忌記念事業として本堂庫裡が改築された。境内には文政 4 年（1821）の道祖神が供養されている。

㊶［民話］デーボコ坊

長沢本行寺の近くに足跡の形をした池があった。むかしむかし、駿河の富士山の麓にデーボコ坊がいた。座れば一里四方がお尻の下になり、立てば胸のあたりに雲がかかり、日本列島を 53 歩で歩いてしまうという大男であった。ある時デーボコ坊は、三浦富士をひとまたぎして房州に渡ろうとしたが、目の前に広い海があった。一寸ためらい、力をいれなおして房州までひとまたぎで渡っていった。そのとき出来た足跡に水がたまり、いつしか谷戸の池となり、日照り続きの年でも田んぼの水に不自由しなくなり、谷戸のお百姓さんには大変喜ばれた。

㊷ 代官屋敷跡

長沢の殿前公園の上にある畑地辺りは「代官所跡地」であると言われている。江戸時代中期（1700 年代初頭）長沢村岡の飯島藤左ヱ門が預かった代官屋敷の跡のことであり、この周辺一帯を「殿ノ前」と言い、現在も、東側に飯島家（屋号 糀屋）が家屋を設けて居住している。この飯島家の西方の畑地が代官所跡地と言 われている。

代官所跡地の山側の一角には、神奈川県下の平和と民主主義運動で逝った活動家を顕彰した「解放戦士の碑」と昭和 52 年（1977)9 月に米軍の戦闘機が墜落し犠牲になった母子の悲惨な死を風化させないため、「平和の母子像（鳩よよみがえれ）」が設置されている。

㊸ 北下浦中学校

昭和 22 年（1947)5 月、野比千駄ヶ崎の旧海軍対潜学校を校舎として、一部久里浜の生徒も含めて野比中学として開校されたが、昭和 27 年（1952）3 月現在地に移転し北下浦中学校となった。地域の開発による生徒増のため、昭和 24 年に久里浜中学校が、昭和 52 年（1977）に野比中学校が、昭和 60 年（1985）に長沢中学校が分離した。平成 28 年度末で 9,195 人の卒業生がいる。

㊹ 北下浦小学校

明治 34 年（1901)5 月、野比・長沢・津久井の各学校を統合して開校され、次いで明治 35 年（1902）高等科を設け、北下浦尋常高等小学校となった。やがて戦時の昭和 16 年（1941）国民学校と改称されたが、昭和 22 年（1947）再び北下浦小学校に改められ、高等科は廃止され、新たに新制の中学が置かれて、六・三制義務教育が始まった。その後、京浜急行の延伸により、高度成長期以降には地域の宅地開発が進み、昭和 48 年（1973)4 月に粟田小学校が、昭和 51 年（1976）に津久井小学校が、更に、昭和 57 年（1982）に野比小学校がそれぞれ分離された。平成 28 年度末で 14,476 人の卒業生がいる。

㊺ 熊野神社

熊野神社の「由来碑」では、「以前は創建が不詳だったが、文化 8 年（1811）11 月に創建された」と記されている。紀州下津浦（紀伊国屋文左衛門の出た所）から、漁民が集団で渡来し、いわしの大型 地引網漁を伝えた「まかせ漁民」が、日頃信仰していた紀州熊野三社権現を勧請したものと言われている。長沢天照大神の拝殿として長沢浜氏子の崇敬厚く、昭和 55 年（1980）新たな社殿が再建された。

㊻ 長沢 1 号墳・熊野神社下遺跡

○ **長沢 1 号墳**

長沢 1 号墳は、長沢公園のある標高約 33m の丘陵先端部に築かれた 5 世紀半ば頃の古墳であり、自然 地形を利用した円墳で、墳丘の規模は直径 20m×22m、高さ約 3.4m です。埋葬施設は頂上部から掘り込まれた墓壙内に安置された 2 基の組合せ式木棺で、剣・直刀・刀子・滑石製臼玉などの副葬品が出土した。墳丘内からは、古墳築造に伴う祭祀に関わる剣・鉾・鉄鏃（やじり）・刀子・臼玉などが、古墳裾部の溝内からは葬送儀礼や墓前祭祀に使われたと思われるお埦や壺などの土器類が出土した。現在のところ三浦半島の東京湾側では、築造時期が確認できる最古の古墳です。長沢公園内に古墳のレプリカが設置されており、副葬品などの出土品は、市の自然・人文博物館に保管されている。

○ **熊野神社下遺跡**

北下浦海岸から 170m ほど内陸に入った標高 10m 前後の砂丘上に立地する。北西側の丘陵上には長沢 1 号墳があり、北東側の谷戸の奥に熊野神社が位置している。長沢 1 号墳と同様、昭和 62 年（1987）の 宅地開発に伴い発掘調査が行われ、14 世紀前半頃の竪穴状遺構 4、堀立柱建物跡 1、焼土址 9、井戸跡 1、土坑 27、ピット（小さな穴）群 128、土錘集中個所 1 が確認された。陶器、羽釜、鉄釘、鉄滓（てっさい）、かわらけ（土器・皿）、土錘（すい）、宋銭などが出土している。本遺跡は帰属時期も含め鎌倉での竪穴建物跡群の様相に近似していることから、鎌倉外縁地域の流通経済を考える上で貴重な資料と言える。遺物は市の自然・人文博物館に保管されている。

㊼［民俗芸能］あめや踊り ●

長沢の浜町内（境、宮の下、七軒町）で宮祭りの際に踊られた。いつ頃から踊るようになったかはっきりしない。あめや踊りは、飴売りの行商人が唄をうたい、踊りながら飴を売り歩くしぐさを地域の人が踊りに採り入れたものである。夏の夜空に競演の太鼓の音がこだまし、丸提灯を連ねた各町内の屋台 が海岸に集まると、屋台の上から、高らかに口上が述べられ、いよいよ「あめや踊り」の開幕である。演目は「高砂」で始まり、「伊勢音頭」「かっぽれ」「白松粉屋」「かきがら」「日蓮記」「笠松峠」等十余 種のレパートリーが夜を徹して演じられる。電線が張り巡らされる前は、屋台と同じ二階式の踊り舞台があり、街道を上演しつつ移動していった。長沢の「あめや踊り」は、昭和 5 年（1930）の日本民俗芸 能大会で日本一になったという輝かしい歴史がある。三浦半島では菊名、長井などにも同じような「あめや踊り」が伝承されている。

㊽ 万代会館

朝早く街道の馬糞を拾って歩くメガネのおじいちゃん…それがソニー会長の万代さんだった。敬虔なクリスチャンで、戦前の財界をリードした万代順四郎氏は、明治 16 年（1883）岡山県勝田町に生まれ、苦学して青山学院を卒業後三井銀行に入行。三井、第一銀行の合併による帝国銀行の創立とともに頭取、後に会長に就任したのをはじめ全国銀行協会会長を歴任、参画した財界企業は 20 数社に及ぶ。昭和 22 年（1947）に公職追放を機に全ての役職を辞して、病妻トミ氏の保養のため同年4月からは昭和 11 年（1937）に購入した津久井の別荘に住み、農耕に親しむ傍ら、ソニー会社の会長として10数年間、東京の会社に通勤された。また、母校の青山学院の理事長・校友会長として教育にも尽力した。昭和 34 年（1959）に死去。生前住み慣れた屋敷と多額の有価証券は、妻トミ夫人の没後、遺族により昭和 53 年（1978）横須賀市に寄贈され、市は万代会館として一般に開放し、お花、お茶、俳句、和裁、手芸、書道など市民の芸術文化活動に広く利用されている。この万代会館は、広い日本庭園を有し茅葺屋根の和風別荘建造物として歴史的価値を持つ文化的資産である。

㊾ 岩船地蔵

津久井浜駅の南側に行った道路の脇に、珍しく船に乗った立像と座像のお地蔵さんが 2 基祀られている。これらのお地蔵さんは享保 5 年（1720）に造立されたもので、坐像の地蔵は宝暦 4 年（1754）に再建された。航海安全と水難除けの祈願をする信仰が厚く、お礼参りの「貝殻の首飾り」がいつもかけられている。時々、頭だけ持ち帰って祈願する信者さんもあって、念願が叶うとお礼参りにもとに戻すという変わった風習があった。

㊿ 蒸気場跡

ボボーッと下浦沖から聞こえる汽笛を「サア お昼だヨ」と、土地の者が時報代わりにしていたこの汽笛の主は、明治・大正・昭和にかけて約 50 年間、三崎ー東京霊岸島間に定期便として一日 1 便運航されていた蒸気船である。家事見習い、進学等、上京、帰郷にはみんなこの船便を利用し、また、東京からの文化の流入地でもあった。なにより運賃が陸路に比べて安いので人気があった。安いはずで、この蒸気船実は三崎の魚を築地へ運ぶ船で人間も荷物並みだったのかも知れない。当時の東京蒸気船下浦 荷扱所の名残りがこの蒸気場である。

(51) ウインドサーフィンワールドカップ横須賀会場

1980 年代後半からのバブル期の高まりに人気を博したウインドサーフィンであったが、以後しばらく低調の時代が続いた。その中で愛好者からは、1 年をとおしてサイドショアが吹きウインドサーフィ ンの最適地として、横須賀市津久井浜ビーチが全国的に有名であった。

2016年12月にPWA プロフェッショナル・ウインドサーファーズ協会）がワールドカップ開催（年間世界 10 か国にて転戦のうちの 1 か所として…アジアでは 2 か所目、日本では静岡県御前崎に次いで 2 か所目 24 年ぶり）を決定し、2017 年 5 月に 4 種目のうち「スラローム競技」を 実施。この成功により、以後 5 年間の継続が期待されている。

Windsurfing World Cup

(52) 法蔵院

浄土宗五劫山法蔵院阿弥陀寺と称し、本尊は阿弥陀如来。昭和 47 年（1972）に立派な本堂が再建された。通称法蔵院と呼ばれ、お十夜で知られる。寺伝によると、建久年間（1190～1199）に明円上人に よって草創され、はじめ天台宗であったが、鎌倉時代の寛元元年（1243）に鎌倉光明寺が創建され浄土の教えが広まったので、浄土宗に改められ、鎌倉光明寺末寺となった。ここの山門の竜の彫り物は、左甚五郎の作といわれ、嵐の夜は海を渡り房州に行くというので、左の目には釘が打ち込んである。また例年 11 月 8 日～9 日に十夜念仏法要が、三浦三市（武山不動縁日、下宮田の神事相撲）の一つとして行われ、深夜まで念仏ご詠歌が続き、夜通し近郷の人々で大変賑わうことで有名である。

(53) 津久井の井戸 ●

新編相模風土記によると、津久井村の井戸田に古い井戸があり、土地の人たちはなぜかこの井戸の水を飲むのを嫌っていると書かれている。地元の人の話によると、この井戸の水は飲用には適さないが、浅間神社の祭礼・儀式の際の水は、この井戸の水を使用したとのこと。昭和 20 年代までは、この井戸にメダカ・ドジョウ・ザリガニなどがいたが、昭和 40 年代の宅地開発で埋められ、現在は住宅地となっている。

三浦の五井（吉井、長井、今井、大井戸）の一つであり、北浦志録によると津久井の地名の起こりとも伝えられている。

(54) 浅間神社

社伝によれば、聖武天皇の天平時代頃、僧行基により駿河浅間神社を浅間山（三浦富士）の山頂に勧請し、ここを奥の宮（本宮）とした。この山の標高は余り高くないが、海上から良い目標となり漁場の選 定や東京湾に出入りする舟の良い目印になるとともに、信仰の対象になっている。

当初、社殿は参道の「富士の入」にあったが、昭和 3 年（1928）現在地に移遷した。祭神は瓊々杵尊（ににぎのみこと）の皇后で木の花の咲き匂うように気高く美しい姫「木花咲耶姫命（このはなさくやひめのみこと）」で縁結び、安産、子育ての守り神として崇められている。明治 41 年（1908）神社併合令により八坂神社・日枝神社・御霊神社が合祀され御祭神は相殿に祀られた。また、境内社として、金毘羅神社、稲荷神社が祀られている。

(55) 津久井貝化石床

三浦半島南部には、宮田層と呼ばれる洪積世（50万年前）の地層が分布しており、地層からは多くの化石が見つかっている。中でも、津久井の崖（浅間神社の社殿の奥の北西の崖）からは 300 種類以上で主なものは、二枚貝、巻貝、フジツボ類、クジラ類、サメの歯など多くの化石が見つかるため「津久井貝化 石床」と呼ばれた。この貝化石床は、昭和 35 年（1960)、京浜急行の延伸工事の際に発見された。平成 18 年～19 年には崖の崩落危険防止のため急傾斜地崩壊防止工事が行われ、現在は見ることが出来ないが、平成 19 年に横須賀市自然・人文博物館が保存のため、現地調査と資料収集を行い地層の一部を剥ぎ取り、博物館には「標本」が展示されている。

(56) 津久井浜高等学校

県立高校 100 校計画の一環として昭和 51 年（1976）4 月、全日制課程の普通科高校として開校した。平成 20 年度（2008）から校舎の一部を使って武山養護学校高等部の分教室が開校されている。平成 28 年度末で 12,907 人の卒業生がいる。

(57)［民話］犬走り

むかしむかし津久井村と上宮田村との間では土地の境界紛争が絶えなかった。この争いは両村の役人が相談したが、いつも喧嘩別れでいつ果てるともなく続き、容易に解決しなかったが、最後に代官の提案で、朝早く白い犬を駆けさせて境界を決めることで話し合いがついた。約束の日、犬は駆けた。しかし犬は津久井の方に大きく曲がって駆けたので、津久井村は損をした。今も白い犬が駆けた所を「犬走り」と呼んでいる。

(58) 旧津久井学校跡 ●

明治 5 年（1872)、野比、長沢と同じく学制が施行され、津久井往生院下の長谷川初太郎さん宅に津久井学校を開設し、法蔵院の住職担当のもとで読書・習字を教えていた。明治 34 年（1901）5 月の北下浦小学校が開設されるまで続けられた。津久井の長谷川さん宅は今も「学校」という屋号で通っている。

(59) 往生院

浄土宗箕輪山往生院と称し、津久井法蔵院末寺。本尊は三浦一族の和田義盛が運慶に作らせたと伝えられる中尊の阿弥陀如来と脇侍の観音菩薩・勢至菩薩の三尊立像である。開基は同所の長谷川惣佐衛門の先祖で念仏修行僧の正寛といわれる。中尊の阿弥陀如来像は、胎内背面に「永禄元年 （1558）戊年 8 月朔日大仏師長勤作次之」と墨書銘があり、室町時代後期の造立年代と作者も判る貴重な仏像として、昭和 45 年（1970）横須賀市重要文化財に指定された。

(60) 荘厳寺

臨済宗円覚寺派安戸山荘厳寺と称し、地域名が山号であり、足利時代の応永 14 年（1407）に入寂した円覚寺の高僧岳雲禅師が開基したといわれる。本尊は大永 5 年（1525）に作られた十一面観音菩薩坐像であり、堂内には運慶作と伝えられる不動明王があり、その胎内には、愛染明王像が納められ、腹 籠不動明王の名がある。かつて三浦一族の佐原十郎義連の守り本尊といわれ、子孫に伝えられ油壷の新井城に祀られていたが、三浦道寸義同が永正 13 年（1516）に北条早雲の軍に攻められ新井城の落城の折、禅僧の子明禅師に託して城外に持ち出し荘厳寺に祀られたという。なお、本堂左手には幕末に三浦半島の海防警備に来たが故郷に帰ることなくこの地に没した長州藩士の墓がある。

(61) 津久井小学校

地域の宅地開発が進み、北下浦小学校の児童数急増に伴い、昭和 51 年（1976)、津久井・グリーンハイツの小学生を対象に開校された。平成 28 年度末で 5,358 人の卒業生がいる。

(62) 峯屋敷跡 ●

三浦一族の棟梁である衣笠城の三浦大介義明は、弟次郎義行を津久井に、三郎爲清を芦名に、四郎義実を岡崎（平塚市）に、長男義宗を鎌倉杉本に、次男荒次郎義澄を矢部に、三男三郎義久を大田和に、四男義春を多々良に、五男義季を長井に、六男重行を森戸に、七男十郎義連を佐原に、更に、長男杉本太郎義宗の子小太郎義盛を和田に、次男矢部荒次郎の子有綱を山口に、十郎友澄を三戸に配し、衣笠城を中心にして、それぞれ有力な家人をもってその周辺を固めるとともに街道を守らせていた。

津久井支配にあたった次郎義行は、その館を下田船原の小高い丘に築き、子孫が代々ここを館としていた。通称「峯屋敷」と呼ばれている。

(63) 東光寺と津久井次郎の墓

○**東光寺**

津久井谷戸にある真言宗七宝山医王院東光寺は、寺伝によれば聖武天皇の天平時代に聖者行基が開基したと伝えられる古刹である。一時荒廃したが、津久井次郎義行が上野阿闍梨とともに中興した。現在、本尊は、大日如来、薬師如来、地蔵菩薩となっている。堂内の薬師如来の左右には、日光菩薩、月光菩薩、十二神将が祀られているほか、不動明王、如意輪観音も安置されている。山門には、金鋼製の仁王像が雄魂の偉容をみせている。

○**津久井次郎の墓**

東光寺の本堂の裏手には、東光寺を中興した津久井次郎義行や一族の墓がある。津久井次郎義行は、源頼朝の石橋山合戦（1180）に兄で三浦一族の棟梁三浦大介義明と共に出兵したが、時遅く頼朝軍は大庭景親に敗れ敗走していたため、仕方なく引き返し、衣笠城において合戦と なり三浦大介義明は戦死、落城した。義行は義明の遺命により多々良四郎義春（兄三浦義明の四男）と共に久里浜の怒田城から房州に渡って頼朝に巡り逢い、以後、頼朝軍に従って三浦一族として源氏に功績を挙げた。

(64) 津久井浜観光農園

三浦半島は、温暖な気候と自然に恵まれ、大根、キャベツ、スイカ、カボチャなど豊かな農産物の主な産地としているが、「みかん」や「いちご」、「さつまいも」といった豊かな果物や農産物の産地としても有名である。

なだらかな丘陵地帯にある「津久井浜観光農園」では、京浜方面からの交通の便利さもあり、春の「いちご狩り」、秋の「みかん狩り」や、「いも掘り」などを親子連れ、幼稚園などの遠足、グループや地域 のイベントなどで楽しむことができ大変賑わっている。また、案内所では、津久井浜観光農園の農家がつくった野菜や漬物、ジャム等も直売している。

(65) 円乗院

津久井牛込にあり、浄土宗仏古山円乗院と称し津久井法蔵院末寺。慶長元年（1596）に創建されたといわれ、本尊は阿弥陀如来、開基は古感上人、開山は方誉上人。津久井観光農園の上の小高い丘にある。本堂に張り出した向拝（ごはい）を支える柱や梁には斗組（ますぐみ）が用いられ蟇股（かえるまた）に鯛が彫られているのは印象的である。これは三浦富士（奥の宮）に大漁、航海安全を祈願した漁師がお礼に建てたものと伝えられている。

北下浦ガイドマップ注意書き

北下浦ガイドマップは、北下浦の自然、歴史、文化などの貴重な資産、魅力を紹介したものです。この中には、すでに無くなってしまったり（途絶●）、所在が不明だったり（不明●）、山の中など危険な場所にあったり（危険●）、個人の所有で許可が必要になったり（個人宅●）など、行くこと、見ることが難しいものも含まれています。ガイドマップを楽しむ際には、ルールを守り、安全を心掛けていただきますようお願いします。　（2018 年 3 月現在）